

RP-06「一関市による就学前の児童発達支援事業の効果に関する調査研究」

課題提案者：一関子育て支援センター

研究代表者：社会福祉学部 佐藤匡仁

研究チーム員：齋藤昭彦、下平なをみ（社会福祉学部）、鈴木佐保、佐藤由子、菅野紘子、千葉綾
須藤眞栄子、須藤眞智子、千葉賢治、千葉敏紀（一関子育て支援センター）

<要 旨>

本研究の目的は、一関市における就学前児童発達支援事業の利用者を対象に、子育て支援に関するニーズと現行支援プログラムの妥当性について調査と分析を行い、得られた改善点を実践プログラムに反映させ、一関市における本事業の効果的かつ安定的な運営に役立てることにある。各事業内容に対して利用者が感じている満足度と重要度を組み合わせて散布図を作成し、重要度が高く満足度の低い項目を抽出するなど、改善要素を把握した。

1 研究の概要（背景・目的等）

この調査の目的は、一関市における就学前児童発達支援事業の利用者を対象に、子育て支援に関するニーズと現行支援プログラムの妥当性について調査と分析を行い、得られた改善点を実践プログラムに反映させ、一関市における本事業の効果的かつ安定的な運営に役立ててもらうことにある。

一関市では、就学前の児童発達支援事業として、発達支援教室と療育教室を実施しているが、発達支援及び療育の効果評価及び事業プログラムの評価が不足しており、利用者や市民の理解を得るための、子どもの特性に応じた信頼性と妥当性のある支援計画の作成と実践に課題があるとされている。

これらのことから、利用者視点に立った児童発達支援事業を推進していくために、何に満足し、何を重要と考えているのか、利用者が感じている事業の取り組みに対する満足度及び重要度を客観的に把握する手段としてこの調査を実施した。

2 研究の内容（方法・経過等）

方法は、以下の通りである。

（1）対象

- ・2015年度（平成27年4月～平成28年3月）の間に、かるがも教室・一関子育て支援センターを利用した163人（転出等を除く）
 - かるがも教室利用者122人（一関教室70人、千厩教室52人）
 - さくらんぼ教室利用者12人（かるがも教室・あそびの教室重複利用者を除く）
 - あそびの教室利用者29人（かるがも教室・さくらんぼ教室重複利用者を除く）

（2）手続き

- ・調査実行時の2016年3月時点において、センター来所による利用者には手渡し配布により依頼、来所予定のない利用者には郵送により依頼
- ・記入された質問紙は、同封の封筒に入れてセンター内

設置のBOX投函により回収、または郵便ポスト投函により回収

（3）期間

- ・2016年3月に配布し、4月末日を〆切として回収

（4）内容

- ・岩手県立大学の提示した雛形に基づいて、一関子育て支援センター鈴木佐保氏をはじめ、センタースタッフと県立大学スタッフとで質問項目を作成
- ・事業内容項目37項目
 - 「子育てを支援する」15項目、「発達を支援する」14項目、「地域を支援する」8項目に大別した合計37項目に、総合的な満足度1項目を付加
 - 満足度については「満足」（6点）から「不満」（1点）までの6点満点に「わからない」を付加、重要度については「重要」（6点）から「重要でない」（1点）までの6点満点に「わからない」を付加して選択（7段階評価）
 - 37項目から、優先して充実させてほしい項目1位～5位まで記載（順位付け）
 - 37項目以外に実施してほしい内容があれば記載（自由記述）
- ・実感感想項目6項目
 - 取り入れてほしい活動や遊び（自由記述）
 - もっと相談したかったこと、助言してもらいたかったこと（自由記述）
 - 教室に参加しての子どもについての感想（自由記述）
 - 教室に参加しての保護者としての感想（自由記述）
 - 満足に感じたこと（自由記述）
 - 不満に感じたことや意見・要望・提案など（自由記述）
- ・フェイスシート・属性項目10項目
 - 性別、年齢、続柄、利用教室、利用経験のある教室、利用のきっかけ、利用目的他
- （5）集計と分析
- ・集計と分析は社会福祉学部佐藤匡仁研究室が担当
- （6）倫理的配慮
- 研究及び調査を遂行するにあたり、「個人情報保護

法」を遵守するとともに、「岩手県立大学研究倫理審査委員会」の承認を受けて行った。調査は研究目的で実施され、質問紙調査への参加は回答者の自由意志であり、いつ回答を撤回してもいかなる不利益も生じないこと、さらに、回答したくない項目があれば無理に回答する必要のないことについて、調査協力者へ文書又は口頭にて説明した。

3 これまで得られた研究の成果

(1) 回収結果

センター利用者163人を対象に配布及び回収を行い、回収数91、回収率は55.83%であった。

(2) 調査結果

Figure1に、満足度と重要度の相対的な分布を示す。また、Table1に、凡例と散布図エリアを示す。

①事業内容項目

<満足度の特徴>

- ・施設の清潔さ、整理された教室に最も高い満足度を示した。
- ・「教室運営」「学び」「相談」「プログラム」「環境」は、すべての項目で高い満足度を示した。
- ・地域を支援する取り組みは相対的に低い満足度を示した。

<重要度の特徴>

- ・プログラムの支援方法、ことばかけや働きかけの適切さが最も高い重要度を示した。
- ・地域を支援する取り組みの中でも、教室の広報活動や地域の子育て支援活動との連携は相対的に低い重要度を示した。

<優先して充実してほしい項目>

- ・1位：5：子ども理解や関わり方を学ぶ
- ・2位：6：発達や療育に必要な内容を学ぶ
- ・3位：8：子育てで困っていることや悩みについて相談できる

<満足度・重要度の相対的な分布>

それぞれの平均値の最高点を100点、最低点を0点とし、相対的な位置を確認した。その上で各軸50点を境に4つのエリアに分類した。

- ・重点維持項目：「教室運営」「学び」「相談」「プログラム」「環境」は、重要度も高く、満足度も高い。
- ・改善項目：「就学・生活・医療・教育等地域資源・サービスの情報提供（子育てを支援する）」「通園保育所・幼稚園や保健師等との連携（地域を支援する）」は、重要度は高いが、満足度は低い。
- ・いつか改善項目：「就職に関する情報提供」や「家族」「地域」を対象とした地域を支援する取り組みは重要度も満足度も低い。

②実感感想項目

- ・個別に丁寧に親切に接する態度や分かりやすく伝える姿勢、親子が楽しく通えた経験、接し方を知れた学び

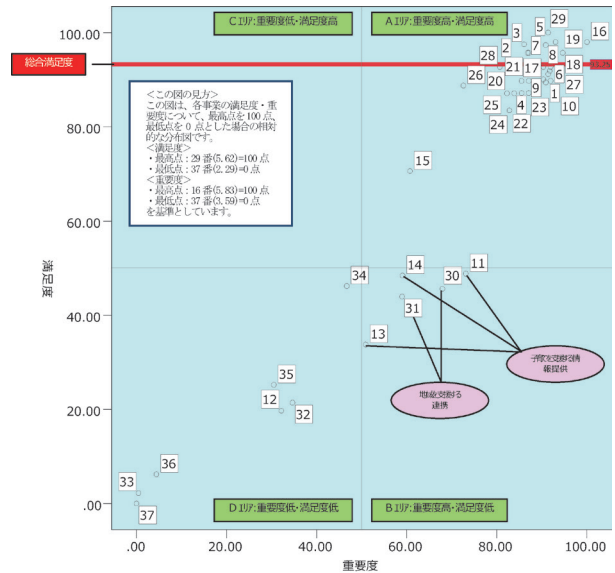


Figure 1 満足度・重要度の相対的な分布

Table 1 凡例と散布図エリア	
A: 1	子どもは、教室に行くことを楽しみにしている
A: 2	教室の目的や支援方針について、わかりやすい説明がある
A: 3	教室の目的や支援方針に、共感できる
A: 4	子どもや保護者の個人情報保護に、配慮がなされている
A: 5	子どもへの理解や関わり方を、学ぶことができる
A: 6	子どもの発達や療育に必要な内容を、学ぶことができる
A: 7	活動プログラムについてわからないことを、質問できる
A: 8	子育てで困っていることや悩みについて相談できる
A: 9	教室参加を通しての子どもの成長や変化について、個別に説明がある
A: 10	子どもの成長や変化について個別に相談できる機会がある
B: 11	将来の進路（就学）に関する相談や情報提供が行われ、保護者との連携がとられている
D: 12	将来の進路（就学、就職、生活の仕方など）について保護者が考える機会を設けている
B: 13	医療機関や教育機関などの地域資源、福祉サービスに関する情報提供が行われている
A: 15	他の参加者の保護者と話したり、保護者同士と交流できるような、情報交換の機会を設けている
A: 16	活動プログラムでの、子どもへの支援、ことばかけや働きかけは適切である
A: 17	子どもは、活動プログラムに満足している
A: 18	子どもが自主的に活動に取り組みよう支援している
A: 19	プログラムは工夫されていてわかりやすい
A: 20	プログラムの進み進みは適切である
A: 21	プログラムのねらいや目的についてわかりやすい説明がある
A: 22	プログラムで行われる集団指導が充実している
A: 23	プログラムで行われる個別指導が充実している
A: 24	プログラムの回数や時間（例：月2回・2時間など）は適切である
A: 25	教室の参加人数は適切である
A: 26	教室にあるおもちゃや道具の種類や数は適切である
A: 27	教室の指導員など、スタッフの数は適切である
A: 28	施設の設備（例：トイレ、エレベーター、案内表示など）は整備されている
A: 29	施設や教室内は、清潔で整理されている
B: 30	通園している保育所や幼稚園と、教室のスタッフが連絡を取り合うなど、連携を行っている
B: 31	乳幼児健診や母子保健担当の保健師と、情報交換や連携を行っている
D: 32	医療機関や教育機関などの地域資源、福祉サービスの機関と連絡を取り合うなど、連携を行っている
D: 33	家庭などを訪問して子育ての相談にのるなどの活動が行われる
D: 34	家族への連絡や共通理解を図るための働きかけ（教室外でも、電話や手紙による連絡を行う、個別相談の時間を取る、など）を行っている
D: 35	家族（祖父母など、教室に同伴していない家族）への説明や共通理解を図る機会を設けている
D: 36	教室の活動について、地域での広報や宣伝活動を行っている
D: 37	地域の子育て支援活動（おやこ広場、子育てサロン、各地域の子育て支援教室など）との連携を行っている

を評価する方が多い。

- ・通う回数や時間、スタッフの増加、専門的手法の取り入れをはじめ、いっそうの充実を希望する方がいる。

③フェイスシート・属性項目

- ・続柄の回収率では、父3.30%、母94.51%、祖母2.20%
- ・現在利用中のサービスでは、さくらんぼ教室2.20%、あそびの教室5.49%、かるがも教室82.42%、いっすね3.30%、ハズ 1.10%、その他1.10%、特になし9.89%

4 今後の具体的な展開

“優先して充実してほしい”項目、“重要度は高いが、満足度は低い”項目等について、事業の改善点を検討し、利用者満足度を高める取り組みを試みる。

5 謝辞

調査にご協力いただきましたセンター利用のご家族の皆さま、共同研究を担っていただいた一関子育て支援センター職員の皆さまに、記して謝意を表します。